

市長室：対話の記録

要旨

開催内容の公開

対話の内容

市長のあいさつ(はじまり)

内容

市長のあいさつ(終わり)

第 25 回目となる今回は、市内の神居中央、神居東地区にお住まいの方をはじめとする市民の皆さんと懇談しました。

74 人の方が参加し、地域特有の課題や、市政やまちづくりに対する意見など、活発な意見交換が行なわれました。



日時	平成 20 年 3 月 26 日(水) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 00 分
場所	旭川市神居住民センター 大集会室(旭川市神居 2 条 17 丁目)
出席者	・西川市長 ・市民(74 人)

対話の内容

※参加者はアルファベット(A～J)で表しています。

同じアルファベットの表記は同一人であることを示しています。

市長あいさつ

皆さん、こんばんは。

今日は神居地区の皆さんにご案内をさせていただいたところ、大勢の方々に来ていただきまして本当にありがとうございます。神居地域以外の方も中にはいらっしゃるかもしれませんが、いろいろな方にお越しただいて、いろいろなお話を聞かせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

最初に若干私の方から市政への取組などについてお話をさせていただいて、それから地域の皆さんからいただいている課題等がいくつかございますので、地域の懸案事項につきまして少し触れさせていただいてから、皆さまからのご意見をいただこうと思っております。8時までの1時間 30 分程度とあまり時間がありませんので、最初簡潔に私からお話をさせていただこうと思っております。

こちらの地区は神居中央と神居東の2市民委員会の地域を合わせて約9千世帯、約1万9千人の方がお住まいになっております。この地域は一方には川があって、反対には山があるというかたちで閑静な住宅街、また道路沿いには商店街も広がっていますが、いろいろな自然環境があるという部分では、皆さんも山や川などに行くと自然と親しむような機会も多い地域なのではないかなと思っております。また子どもに大変人気のあるカ

ムイの杜公園があり、わくわくエッグは非常に人気があって、地域の方のみならず全市から本当に大勢の子どもたちに来ていただいて、私どもも本当にうれしく思っているところであります。

これまで市長に就任させていただいて1年と3、4か月が経過した中で、地域での対話集会を13回、そしていろいろな団体の皆さんと対話集会を11回行い、今日で25回目になります。その間、いろいろなご意見をいただいてまいりました。私の市政運営の一番の原点に据えております対話をしっかりと重要視して、対話から市政を動かしていきたいというような思いで、これまでまちづくり対話集会を続けさせていただいております。

今までいろいろなご意見をいただいた中で、市政に反映させていただいたものとしては、ごみ袋の有料化に伴い、障害者の団体の皆さまから、市内にいくつも障害者の皆さんが作った商品を販売している店舗がありますが、神居地区にもねむの木さんで作ったものを販売している店舗があると思っておりますが、そういう所でもぜひごみ袋の販売をさせてもらいたいというご要望があり、私どもそれがきっかけで授産施設等で作った商品が、もっともっと市民に買ってもらえるようなチャンスになればありがたいなという思いで、そういった施設での指定ごみ袋の販売をスタートさせていただいたりですとか、また最近では農村体験というものが大変盛んになってきておりまして、グリーンツーリズムとよく言いますけれども、この窓口についての一本化をさせていただいたりですとか、高齢者、障害者が優先的に市営住宅に入居する枠を特定目的住宅として新たに125戸増加させていただいたりですとかさせていただいております。



また、新年度の予算を先日の議会で可決していただいたのですが、対話集会でいただいたご意見の中で4月以降の予算に反映させていただいたものとして、今お話したグリーンツーリズムに関連して、昨年閉校した東旭川の第一中学校の跡地に修学旅行生などを誘致して、グリーンツーリズムの拠点にしていこうとか、また精神障害者の方へのバス料金の助成ですとか、また学校給食で今までメラニン製の食器を使っておりましたが、環境ホルモンの影響等であまり子どもさんの体に良くないということで、これまでも強化磁器食器に順次変更してきているのですが、昨年の倍くらいの予算をつけさせていただいて、強化磁器食器への変更を早め、一日も早く市内の全小中学校に強化磁器食器を導入していきたいということですが、また子育て支援、中心市街地の活性化になるのですが、新年度から、駅前のエスタさんの4階の一角をお借りして、中心街に来られたご夫婦が買い物の間、そこに子どもを預けて買い物を楽しんでいただき、またそこにはいろいろな子育ての相談をしていただくことができるような専門員も配置する予定でもあり、そういった「子ども広場」というものを新年度、実験的にでありますスタートさせていただこうと思っております。この中で需要を調査させていただいて、一定の需要があると判断できた時には、来年度以降、ぜひ民間の方にそのデータに基づいて民間施設として中心市街地にそういったものをつくっていただきたいと、市からお願いをする材料をつくっていききたいということで、そういう取組をさせていただこうと思っております。また、市内全域にいくつも河川敷のパークゴルフ場があります。今日来られている皆さんもパークゴルフをしている方はたくさんいらっしゃると思いますが、この河川敷のパークゴルフ場について、芝の状態があまりよくない、もう少しよい芝にしてほしいというご要望を多くの地域からいただいております。ここで課題となるのが、芝はやはり水がないときれいに育っていかないと、すぐそばに川があるから水を引いてきて、芝に与えればいいのではないかと一般的には思われるのですが、河川敷については国の管理下にあつて、それがなかなか叶わないのですが、そのような中で国から許可をいただいて、末広地域のパークゴルフ場にボーリングをして、3基ほどの給水、放水施設をつくらせていただくことができました。この地域については、芝の管理をある程度できるということで、今年から地域のパークゴルフ愛好家の団体の皆さんに一部管理を委託していこうということで、進めておりま

す。ぜひ今後も国と交渉を重ねて、他のパークゴルフ場にもこういった散水施設を拡大していきたいと考えているのですが、その中で順次国との話合いがついた時点で、財政との兼ね合いもあるのですが、散水設備等を設置し、地域のパークゴルフをする方々に無理のない範囲内で管理をお願いして、皆さんのパークゴルフ場として親しんでもらうというように今年度からも進めていきたいと考えております。

また、いろいろな地域で道路や橋の整備等のご要望も受けております。これらについてすでに計画に入っているものもありますし、また計画に入っていないものもありますが、計画に入っている中でも、国、道、市の財政の兼ね合いでなかなかすぐにとりかかることができないというようなものについてもございますが、この神居地域においてもそういった課題もあると聞いているところでもあります。

また、最近のトピックですが、第49回冬まつりが2月に開催され、来年在50回ということで、まさに半世紀を迎えようとしておりますが、今回は100万人突破という本当に明るいニュースを受け取ることができました。動物園を核とする観光ブームということもありますし、天気も良かったりですとか、小島よしおさんという人気タレントが来たということもあるのかもしれませんが、来年は50周年ですので、ぜひ大成功にしていきたいなということで、来年の冬まつりはもう少しいろいろと知恵を絞って工夫していこうと思っております。

また、今ちょうど角川映画さんで動物園の映画の撮影に入らせていただいております。来春のロードショーをめがけて撮影をしていただいております。旭川を舞台にした本当に久しぶりの映画でありますので、これもまたひとつの契機に旭川のイメージアップとPRに大きくつながっていくのではないかと考えております。

また、一方では市の財政が非常に厳しい状況が続いております。今回の一般会計予算が1千464億円ですが、7年連続で減少しているという状況です。私が市長になる大分前ではありますが、一番旭川の景気がよかった、また国の景気もよかったのでしょうかけれども、税収があり、しかも国からの交付金、補助金等が一番多かった時代の一般会計予算は1千700億円以上でしたので、この時と比べるとここ10年近くの間には300億円、約20%の減となっており、そういった部分では私どもも行政の立場からの本意ではございませんが、市民の皆さんに負担を強いている、負担増になってしまったり、また一方ではサービスの低下といったこともお願いをしている部分がございます。非常に心苦しい思いをしているところでございますが、1日も早い財政の健全化に向けて取り組んでいるところであります。ただ、ご心配されないでいただきたいのは、旭川市は決して夕張市のように財政再健団体、つまり旭川市が倒産するということはないようにしていきたいと考えておりますので、その部分についてはどうかご安心していただきたいと思っております。しかしながら、一方で厳しい判断を迫られる、せざるを得ないというようなことがこれからも数年続くかもしれませんが、どうかご理解いただければと思っております。今年は敬老祝いの金の廃止ですとか、上下水道の一部減免を縮減ということもさせていただいているわけですが、一方では妊産婦さんの公費負担の健診を1回から3回に増やしていただいたりですとか、先ほどの子どもふれあい広場事業ですとか、留守家庭児童会、また第2児童会を市内3校で拡充させていただいたりしております。これについてもまだまだ不十分だと思っておりますので、引き続き取り組んでいきたいと考えております。地域経済を何とか良くしていきたいという思いの中で、農業や食品関係、ものづくり、製造業、こういった部分についても一生懸命取り組んで、一日も早く雇用、また経済を好転していきたいということで、さらに頑張っていきたいと思っております。

また、平成22年の10月頃に高架工事が完了する予定ですが、数年後に私どもの旭川の顔となる新しい駅舎が完成して、また市内中心部にもたくさんのホテルが建つということを知っておりますので、これも中心市街地の活性化、かつての買物公園の元気を少しでも取り戻していきたいということに寄与していきたい、寄与できればなという思いでございます。

また、5月の連休を挟んでですが、市の機構改革を実施することになりました。今までいくつかの部に分散されていた子育てに関する業務を「子育て支援部」というところに統合させていただく予定でございます。学校関係の業務は今までどおり教育委員会にあるので

すが、教育委員会と子育て支援部とで、子育て、子どものことに関する業務はなるべく集約していくことですか、また税に関すること、市税や国民健康保険などに関することについて「税務部」という部に集約をさせていただこうということでございます。また窓口ですとか相談機能、こういったものについても利便性の向上に向けて、4月以降ひとつひとつ取り組んでいこうと、今、準備を進めているところであります。

簡単に市政の報告をさせていただきましたが、いくつかの神居地域の皆さんの案件がございます。

そのうちの一つについて、伊ノ沢スキー場の問題があります。今日も関係者の方々や伊ノ沢スキー場を日ごろから使ってらっしゃる方もいるのかなと思います。先日、3月10日に地域の皆さんにご説明させていただいたわけですが、今日は私からこの件について触れさせていただきたいと思っております。

伊ノ沢スキー場については、ご存じのように市民スキー場として、特に子どもや初心者の方を中心に利用していただいております。そのような中でリフトが非常に老朽化して、安全性の確保ができないということもあり、今年度いっぱい撤去するということになり、既にもう撤去が済んでいるかもしれません。私もこれは大変苦渋の決断でありましたが、新しいリフトを設置するための約1億5千万円の財源を今の市の財政の中で捻出することが非常に難しい中で、振興公社が運営管理しているわけですけれども、振興公社におきましても同じ状況ということで、新年度に新しいリフトをつくることができない状況でございます。しかしながら、私も4月以降、地域の皆さん、利用者の方々やスキー連盟の皆さんなどとしっかりと今後の伊ノ沢の在り方について意見交換をさせていただいて、お話しをお伺いしながら、来シーズン、今度雪が降る時、このスキー場がどうかたちで市民の皆さんに利用いただけるかということをしかりと検討していきたいと思えます。来年度のリフトの設置については叶わないかもしれませんが、例えば旭山市民スキー場では、今、子どもたちがスノーモービルで遊んだりですとか、チューブ遊びをしたりですとか、そういったかたちで非常に人気があって、市内の子どもたちだけでなく、観光客の方にも利用していただいておりますが、もしかしらそういう方法もあるかもしれません。また比較的安価に設置可能なロープトウも選択肢の一つとしてあるかもしれませんが、これらについては皆さんと意見交換をさせていただく中で、年度途中であっても必要な決断と判断をして、来年度以降の伊ノ沢の運営に向けて取り組んでいきたいと思っております。

また、これは1年、2年という間では非常に難しいのですが、将来的に、例えば市の財政、振興公社の財政状況が良くなり、またはスキー人口が増えていき、需要が増えて、ある程度赤字がなく運営していくことができるめどがついた際に、リフト設置の可能性、余地についても一定程度残していきながら、伊ノ沢の将来を考えていく必要もあるのかなと思っております。また、市内や周辺町村にもいくつかスキー場がありますが、そこで特に子どもたちにどういった部分で、伊ノ沢の役割を果たしていけるかということについて、しっかりと話し合いをさせていただきたいと思えます。

また、その他質問が出ましたら、その時に答えさせていただきたいと思っておりますが、神居地域の皆さんからは、平成大橋の4車線化についてのご要望ですとか、児童生徒の宗教行事への参加についてのご意見ですとか、また町内会組織の中「婦人部」についてこの名称を「女性部」に変えるべきではないかとか、また民生委員の活動についての話や、また住民票の交付、印鑑登録時の市役所の対応等についての意見などもいただいております。ご質問があれば、その際に答えさせていただきたいと思っておりますが、今日はそれらの話にとらわれなく、皆さんにはいろいろと日ごろの思いをお話していただけたらと思えます。

今日は大変大勢の方がお見えになっておりますので、なるべくお一人の方の意見を簡潔にお話していただければと思っておりますので、ご協力よろしくお願いたします。

以上簡単ですが、私からの冒頭のごあいさつも兼ねてお話しさせていただきました。よろしくお願いたします。

参加者A

新駅舎の建設費ですが、外壁の総ガラス張りなどで市の負担額が約 15 億円増ということになりました。100 年を見据えた施設と新聞に書いてありましたが、この財政状況が厳しい中で、15 億円も市が負担してガラス張りなどそこまでのものが必要なのでしょうか。また、三浦綾子記念文学館への約 500 万円の補助金支出についても同じです。これについては議会で上限 200 万円とすべきとの決議が出ていますよね。どうして文学館にそこまでするのでしょうか。それから平成 20 年度の予算の中で、動物園に1億円の予算を計上していますが、2億ないし3億円の黒字があるということなのに、なぜその黒字を使わないのでしょうか。このような状況の中で1億5千万円を捻出できずに、伊ノ沢スキー場のリフトを撤去するというので、3月10日に住民説明会を行われましたが、なぜもっと前に市長の言う対話集会ができなかったのでしょうか。市長から今後の代用案についての話がありましたが、それについても市民との対話がない状態での話です。新駅舎の建設費についても、議会在始まる前に決定していますし、伊ノ沢スキー場のリフトを撤去してしまってから説明会を開くというのはおかしいと思います。

新駅舎の建設に15億円も増額して、ガラス張りして忠別川を見えるようにと言いますが、誰が見るのですか。また60本の苗木を植えると言いますが、その維持管理費用はどこからお金が出るのですか。そんなお金があるのだったら、もっと市民に還元すべきです。学校開放事業を夏・冬休みの間は中止する問題もそうです。市長は職員と予算編成時に協議して廃止するというにしましたのですね。それが議会で取り上げられ撤回しました。伊ノ沢スキー場も撤去する前に話合いがあるべきでした。20年度の予算が決定する前に話合いがあってもよかったのではないですか。ごみの有料化の時にも市は話合いを何回もしますと言いながら、私の地域は1回しかありませんでした。市長も市職員もすっかりと市民の方に足を運んでくれなくてはだめです。学校給食費、市営住宅の家賃、保育料の未納者がたくさんいるというような状況で、机に向かって話をしてもだめです。もっと市民の意見を聴いて物事を進めなければだめです。市長の公約の対話集会にしても、就任1年が経過して、神居地域は今日が初めてです。平成20年度の予算が議会で可決してしまったのに、今頃話をして何になるのですか。市長は今シーズンのリフト設置は無理だと言いましたが、馬鹿にされているような気がします。

参加者B

2月2日の新聞に伊ノ沢スキー場のリフトが今季限りという記事が出て、それからどういう経過があって3月10日でなければ説明会ができなかったのでしょうか。リフトを撤去し始めたのが翌日か翌々日です。一体どうなっているのでしょうか。

市長はもっと前にこの件は知っていたはずだと思います。2月15日に開催した神楽岡での対話集会で既に知っている方がいて発言していますよね。肝心の私たちの地域に対話集会開催の案内が来たのが2月20日付けです。あまりにも遅すぎると思います。せっかく市民との対話のためにこの集会を開催しても、この伊ノ沢スキー場の問題で時間を取られてしまって、もったいないと思います。あまりにも遠すぎて、東神楽の町民のためにつくっているのではないかと思われるような地域に建設している東光スポーツ公園にあれだけの高額な費用をかけることができるのであれば、リフトの設置費用1億5千万円くらいは、何とかならなかったのだからと思います。

参加者C

伊ノ沢スキー場は歴史のある施設なのです。大正、昭和、平成と100年間もスキー場としてあり、市民のみならず全道のスキーをする人たちがこのスキー場を知っています。昔はシャンツェもありました。また、先ほど子どもや初心者のスキー場と言われましたが、ここで基礎を習ってオリンピックの選手が2人も出ているんです。そのくらい大切なスキー場なのです。それを簡単に、振興公社のことだから何もできないと言うのではなくて、経過を全市的に説明しなければならぬ問題なのです。神居地区だけのことではないのです。旭川市民のスキー場なのです。そういうことを考えて発言してほしいと思います。

参加者D

スキー場の存続が財政的に厳しくなったということですが、なぜこのような状況になってしまったのかということ、市として把握しているのでしょうか。単純にスキー人口が少なくなったとか、市の財政状況が厳しいからではなく、もう少し深く追求して、その原因をきちんと把握しておかなければ、今後のスキー場開発など様々なものについても同じようなことになってしまうと思います。

私もリフトの撤去には反対しています。今、スキー人口が減っていると言っても決してまるっきりなくなっているわけではありません。全日本スキー連盟や北海道スキー連盟の予算は間違いなく減っていますが、反対に中国や韓国などの方では、室内スキー場ができ、人工降雪機を設置して、多分この10年以内にトップレベルのオリンピック選手が出てきます。そういうようなことがあります。まず旭川市として考えなければならないのは、伊ノ沢スキー場というのは、少し足をのばせば届くスキー場です。それがなくなってしまうとサンタプレゼントパークまで行かなければなりません。車を持っている方はいいですが、ない人はどうやって行くのでしょうか。1時間に2本のバスを待つしかないのでしょうか。そういった市民の不便さも考えられます。

他に斜度の問題があります。小学校低学年にはサンタプレゼントパークの斜度はきついです。まずは手慣らして伊ノ沢スキー場の斜度が一番いいと思います。

収益を上げなければならないということもあるのですが、15億円かけて新駅舎をガラス張りにして、観光客が「すごいいいまちですね」と言うのでしょうか。本当に強い旭川市にしていくのであれば、お金はとっておくべきだと思います。余計な事はせず、動物園だって今はいいですが、いつまたどうなるか分からない。その時にどうしますかというのが今後の問題になっていくと思います。正直な話、駅舎に15億という大きなお金をかけることができ、リフト設置費用の1億5千万円をなぜ何とかできないのでしょうか。例えばですが、閉鎖した深川スキー場のリフトを持ってきて設置した場合にはどのくらいかかるのだろうかとか、また、スキー場の従業員の方には申し訳ないのですが、券売場に3人、リフトに乗るところに2人も従業員が必要なののでしょうか。切符を切るところで券を販売すれば人件費を1人分削減できるとか、こういうことを検討すべきだと思います。

市長のプロフィールにスキーが大好きだとありましたので、スキーが好きな一人の人間として、大正の時代から続いているスキー場がなくなるということについてもう少し重く受け止めていただきたいと思います。

参加者E

子どものためにとおっしゃっていた市長に一票を投じたのですが、伊ノ沢スキー場がなくなるということを聞いて驚きました。今、市長が小さいお子さんのためにどうしたらよいか考えていきたいとお話しされていたのですが、小学生や中学生もいます。伊ノ沢スキー場は、地域の子にとって、お金を直接持っていかななくてもシーズン券さえあれば滑れるような場所だったと思います。旭山のようにスノーモービルやチューブ滑りをと言われましたが、それはやはりお金を取るんですよ。そうすると子どもたちだけで行けません。親がお金を出さなければならない。親たちはまだ30、40歳代で一生懸命働いているのに、子どもの遊びのためにお金を投じるのはどうかと思います。旭山であれば、遠くから来る人のためにとても良いことだと思いますが、この地域でそのやり方は私は納得できないと思っています。できればやはりシーズン券などを買って、年間を通して使えて、子どもたち同士で行ける場所であってほしいと思うので、絶対にリフトをつけてほしいです。

私には今度4年生になる子と年長になる子がいますが、2人とも滑れるようになって、やっとこれからという時にスキー場がなくなってしまう、すごく残念がっています。先日の市の説明会の時に、帰ってから子どもから「お母さんどうだった」と言われたのですが、何とも答えることができなくて、もどかしい感じ、感情があって、本当にその気持ちを今伝えたいなと思ってお話しさせていただきました。

市長

今、伊ノ沢スキー場に関して、いろいろなご意見、本当に切実な思いを聞かせていただきました。私も3月10日の説明会のお話しは担当者から聞いておりましたので、皆さんの思いというのは本当に大変なものだと理解した上で今日この場に来ているわけでございます。いろいろな他の事業との比較等の話もありましたが、これら細かいところひとつひとつについて申し上げても、ある面弁解がましくなってしまうりですとか、また細かい話になってしまいますので、今日はその部分についてのお話しは避けませんが、いずれにいたしましても、来年度、今年の秋までにリフトを設置するというのは厳しい状況でございます。先ほど申し上げたように、将来にわたってそういう可能性について全くの否定はしませんが、来年度以降、当面の伊ノ沢スキー場の活用という部分については、地域の方はもちろん、スキー関係の方々からいろいろとご意見をいただきたいと思っております。

また、私も中学生の時はスキー部でしたし、小学生の時は年間60日くらいスキー場に行っておりました。小、中学校と毎年シーズン券を買っていらしたので、先ほどのスキーについてのいろいろな部分のお話しについても、一応理解しているつもりです。そういったことを踏まえた上で、最終的に私が予算を決定する立場として、今回、決断をさせていただいたわけでございます。

また、皆さんに報告する時期等について、お叱りをいただいていることについては、私としても深く反省をしているところでありますし、以後、今日のご意見については本当に真摯に受け止めながら市政の運営執行をしなければならないと思っております。

サンタプレゼントパークなどに行く上での交通機関の問題等もあるわけですが、そういった部分についても今後の課題としてひとつひとつ改善していくことができるように関係部局ともしっかりと話をしていかなければならないと思っております。

今日この場で、今すぐリフトを付けますということは残念ながら言えませんが、大変申し訳ございませんが、皆さんにはご理解いただいて、今後いろいろと努力をしていきたいと思っております。本当に申し訳ない思いでございますが、どうかご理解いただければと思います。

参加者B

ロープトウというのは幼児は乗ることができません。幼児が乗れるようなものを設置してください。

市長

今のご意見も踏まえた上で、いろいろと今後検討を進めていきたいと思っております。

参加者F

私は神居地域の住人ではないのですが、市長と直接お話しをする機会がないので参加しました。今、旭川市だけではなく、日本中の皆さん誰もが感じていることだと思うのですが、私も両親の介護で10数年間も苦労してきています。私自身も介護の現場で10数年間働いていたことがあり、現在も老人福祉関係の仕事をしていますが、介護、医療の現場での人手不足がすごく深刻になっているという現状を見聞きしています。あまりにも人手が足りなくて、重労働になってきて、働いている若い方達がどんどん辞めていくという現状も見えています。これから少子高齢化の時代で、皆さん誰もが関係のある問題だと思います。私の両親は今も病院に入院していますが、その前は施設に入所しておりましたが、どの現場でも人手が足りず、また介護老人保健施設、特別養護老人ホームなどでは、症状の重い人、特に認知症で徘徊のある人などは入所させてくれません。私もそういう現場に関わっていたのでわかるのですが、家族が大変で看ることができないのでお願いしているのに、施設でも人手不足や怪我をすると困るとか、施設から出て行方不明になったら施設の責任だとか、そういう事になるので入所させたくないというのはもちろんあると思いますが、家族はそういう人だからこそお願いしているのです。私も地域包括支援センターや各施設にもお願いに行きましたが、症状の重い人は入れてくれませんし、病院では重い

病気がなければ入院できません。これは誰もが直面する問題です。最近、介護に関してのいろいろな事件もあちこちであります。いらぬ道路にお金をかけていたりですか、先ほどの旭川駅の話もありますが、本当に税金をもっと福祉や介護の現場に使うようにしてもらいたいと思います。

参加者G

最近、私の町内で亡くなった方がおりますが、孤独死でした。皆、老後を抱えている身でありますので、ぜひ福祉の方に力を入れていただきたいと思います。

市長

ご家族が認知症などになっていく中で、自宅で介護するというのは非常に大変な負担になると思います。介護保険制度や4月から始まる後期高齢者医療制度もありますが、なかなか施設に入れられないという声はいろいろところで聞いております。そのような中、今後、施設等も拡充していかなければならないのかなと思っておりますし、平成21年度に市内の特養、老健施設等の様々な施設の設置に関する新基準をつくっていくということで、今準備をしておりますので、地域のニーズ、どれだけの方が施設に入る需要があるのかということを見極めさせていただいて、新しい施設の整備も進めていきたいと思っております。

また、介護士やヘルパーなど働いている方の給料等については、民間の施設でありますので、その給料に対して私どもから直接補助することにはならないのですが、この方々の給料が非常に安くて定着率が悪いという話は全国的に問題になっているということで、国の方でも最低賃金の引き上げということについて話し合っているそうです。

私は今39歳ですから、私が介護を受ける年齢、今から30、40年後には私たちの次の世代はもっともっと少なくなっており、老老介護ということになってくるかもしれません。その時代には労働力はなくなってしまって、場合によっては外国人を労働者として受け入れていかないと、日本の福祉、医療が崩壊していくかもしれないと思っておりますが、地域においては、ひとつひとつですけれども、皆さんからの貴重な税金を、そういった部分にもまわしていけるように今後さらに検討していきたいと思っております。

参加者H

学校給食費ですが、滞納している人は本当にいるのでしょうか。滞納者に対してはどのような対応をしているのでしょうか。私は小学生の孫がいますが、おかずを減らされては堪りません。滞納者へは積極的に催促するよう取り組んでもらいたいと思います。

除雪について、ここ何年も同じ町内会の役員の方が除雪業者としてこの町内の除雪をしています。今年は3、4回除雪していきしましたが、あまり除雪状況は良くありません。角々に積まれた雪が危ないので、他の人に頼んで避けてもらっているのですが、業者は避けた所にまた雪を置いておきます。なぜ同じ町内の業者が同じ町内の除雪をやっているのでしょうか。このような除雪の話がしづらい状況です。

また、札幌では排土板を使って家の前も除雪しているようですが、旭川でもそれができないのでしょうか。

また、市議会議員が政務調査費などで視察に行きますが、広報誌などに視察先や視察してきた効果などを掲載してほしいと思います。

市長

学校給食費、保育料の滞納者は旭川市内にもたくさんいます。私どももそれはいろいろな方法を使って催促をしております。4月以降もこれはもっともっと進めていかなければいけないと思っております。学校給食費についても同じで滞納している方はたくさんおります。ただ給食については、保育料と比べると全国的な割合で言うと旭川はまだ少ないと思っております。ただ保育所の法律というものがございまして、例えば保育料を払わない人には保育所から出て行ってもらい、やめてもらうということは、法律でできないことになっておりま

して、お金を払わないという理由では保育所から出て行ってもらうということができないことになっております。これは保育所は福祉施設というところからの発想なんだと思います。厚生労働省の管轄なのでそういうことになっているのだと思います。ただ、待機している方、保育所に入りたくても入れない方がたくさんいるわけですから、未納者が少しでも減るように取り組んでいかなければならないと思っております。

除雪の業者に関しては、今市内を9か所の地域に分け、秋に入札を行っております、こちらの地区はどの業者になっているのかわかりませんが、神居地域の業者だったり、場合によっては関連の業者がいたり、4、5社の複合企業体で一地域をやっております。ただ、どの地域も神居であれば神居の業者、神居に近い業者、永山であれば永山のもしくは近い業者となっているのが現状です。顔見知りの方になかなか言いづらいというものもあると思いますが、現状を変えとなると、入札制度の変更になってくると思いますので、そういう声があるということについては、私どもも受け止めなければならぬと思っておりますが、なかなか地元の業者だから地元の除雪業務から排除するというのは、場合によっては独占禁止法ですとか公正取引法という部分に抵触するのかもしれないですね。

政務調査費については、議員の皆さんがそれぞれどこに視察に行っているのかというのは把握しているのですが、それがどういう成果として現れているかというのは、今、市では指標としては正式にはないんですよ。そういったご意見もあるということですので、今後、議会の話になってきますので、なかなか市長部局からは言いにくいことでもありますので、議長なり議員にお話しさせていただきます。

参加者H

神居地域の除雪業者は豊岡や永山など別の地域の業者を担当してほしいです。

市長

同じ地域の人にはなかなか言いづらいということですよ。

参加者B

入札制度がどうのこうのではなくて、除雪センターに所属している業者はたくさんいるはずですので、地元ではない地区の除雪をするようにしてほしいということです。地元の業者に対してはものが言いづらいと思います。

市長

そういう意見があったということで土木事業所と検討してみます。

生活交流部長

除雪センターではいろいろな除雪体制のご意見等を受けていると思います。除雪業者が顔見知りであったら、あまり強く言えなかったりすることもあるかと思います。センターで、業者でない方が電話を受けるなど、皆さんが意見を言いやすいような体制について考えてもらうような話を土木事業所にしておきたいと思っております。

参加者B

除雪業者はすぐに対応できるように、できるだけ近い地区の除雪をするようになっているとは思いますが、地元の業者がその地区の除雪をしないようにすることくらいは簡単だと思います。

生活交流部長

実際にどのようにできるかどうかも含めて事業所の方に伝えておきたいと思っております。

それから、札幌と旭川の除雪の仕方の話がありましたが、札幌の場合は地域の生活道路は自分たちでお金を出して市と一緒に除排雪しているという部分もあり、道路の場所や形態によっても、若干旭川市とは違う方式をとっております。いずれにしても、私ども

の生活道路についての除雪の説明が十分ではないのかなと思いますので、改めて旭川の除雪体制について、皆さんにご理解していただけるような周知方法等について一層取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

参加者H

今年は3、4回の除雪があったのですが、道路の真ん中だけ掃いていただけです。そして雪が積もった時には来ないんですよ。市の土木部の方で、業者が除雪した後に除雪状況を確認してほしいと思います。札幌では排土板で自宅の前の雪も除雪しています。予算の都合はあるでしょうが、今の除雪の仕方はまるでドライブです。ガソリン代がかかるから真ん中だけ雪を掃いて角に置いて終わりです。

生活交流部長

生活道路の真ん中しか掃いていかないということですが、そういう除雪の手法も基本的にはしています。ただ交差点が塞がったり、道路がかえてザクザクになってしまうなど、その道路状況によっては、雪を持って行くようなこともしております。それは土木事業所、市の方で見て判断して対応しておりますので、その辺についても土木事業所の方へ連絡したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

参加者I

福祉灯油の助成があるというお知らせが回覧板でまわっておりましたが、その助成金5千円の振込口座には2、3か所の銀行が指定されています。神居の十字街からこちらの方には銀行はなく、郵便局しかありません。申請者は高齢者です。たった5千円もらうのに書類不備で2回も3回も役所に行って、タクシー代をかけては何にもならないですね。税金や保険料などの支払いは郵便局でもどこでもいいことになっているのに、市民に還元する場合にはなぜできないのですか。

保健福祉部次長

福祉灯油についてのご質問ですが、ご指摘のとおり福祉灯油の振込口座は銀行と信用金庫、農協となっております。なぜ郵便局には振り込みできないのかというと、実は*郵便局(現ゆうちょ銀行)は手数料が千円かかるのです。他の銀行ですと10円かかるからです。

私どもの対応としましては、申し込みの時に、郵便局しかない場合にはその旨申し出てくださると説明をしています。その場合には私どもが直接届けたり、また窓口払いをご希望される方には窓口払いをさせていただくという対応をしておりますので、ぜひご理解いただきたいと思います。

参加者I

5千円をもらうのに千円も2千円もタクシー代をかけて誰が行きますか。文書には「郵便局しか口座がない人は申し出てください」とか、「窓口払いをします」などと書いてありましたか。書いてなかったと思いますよ。

保健福祉部次長

確かにご指摘のとおり情報の提供の仕方については不備があったと反省します。私どもとしては、いろいろなケースがありますので、窓口に来られた時、また電話で受け答えする時に、そういう説明をして対応させていただいております。

参加者I

回覧された文書に「何かあったら対応しますので連絡してください」などとしっかり書いてください。

保健福祉部次長

確かにそういう面で配慮不足だったということは認めます。

参加者I

郵便局で振り込み手数料が千円かかるということですが、市の市民交通傷害保険では、取りまとめ報奨金として1人につき20円を町内会に支払われ、これも以前は申込みした時にすぐに支払われました。しかし今は後でまとめて振り込みされることになりました。これは何故ですか。それは無駄ではないですか。民間であれば考えられないようなことをしているんですね。例えば10人分持ってきたら、その場で200円を渡せばいいことです。それをいちいち振り込みしていたら、それこそ無駄遣いではないですか。

生活交流部長

いろいろな部署で、対応がまちまちで不十分な部分があったかと思いますが、今後についてはやはりその辺は直していかなければならない部分でありますし、どうしても広報誌ですと誌面の都合上、全部書けない部分がありますが、窓口での説明が十分でなかったために、何回も来ていただくということがないように、また電話対応時にきちんと説明できるようにするなど、そのような十分な対応を考えていかなければいけないと思っていますので、ご理解いただければと思います。

市長

今日のご意見を踏まえて、私どもも工夫してやっていきたいと思っています。

参加者I

こういうのは各部署でのやり方等を統一していただきたいと思っています。

参加者J

私は神居地区の住人ではないのですが、子どもの頃から伊ノ沢スキー場を利用してきた一人として、また数年前には伊ノ沢スキー場が衰退していくのを見て何とかしようということで「伊ノ沢スキー場を愛する市民の会」を数人でつくり、市に陳情したという経緯もあり、そういった観点から市長にお話ししたいと思っています。

市長は市民との対話を市政に強く生かしていきたいとおっしゃっております。私たちや地域住民、旭川市民の伊ノ沢スキー場に対する思いは、とにかくスキー場をきちんと整備して、ロープトウなどではなく、きちんとしたリフトを何としても来シーズンまでに付けてほしいということが全てでありますので、先ほどから予算繰りがつかず、これは非常に厳しいというお話をされていますが、市長は私たちと対話をする前にこの件について決断をされたと思いますので、我々のこの思いをもう一度持ち帰り、予算繰りを見直すなど再度検討していただいて、また数か月後に集会などを開催して、きちんと経過等を説明し、我々が納得できるようにしていただきたいと思っています。

とにかくこの市民スキー場を守るということは、我々の未来をつなぐ子どもたちのためということで、私は強く市長にお願いしたいと思っていますので、どうぞよろしく申し上げます。

市長

ご意見としてお聞きさせていただきました。今日の時点での答えは先ほど申し上げたとおりでございますので、ご理解いただきたいと思います。また今後4月以降ですが、地域の方はもちろん、スキー関係の方々といろいろと協議をしていきたいと思っております。

参加者B

旭川の駅裏に2本の橋ができる予定ですが、神居地区に来るのは両神橋と平成大橋しなく、残念ながらその中間に橋がありません。ここから神楽に抜ける橋を一本架けてほしいと思います。これについては、町内で特に話をしておりませんが、徐々に町内の方に

話を、要望として上げていきたいと思ひます。現時点でこの橋を架ける計画があるのかお聞かせいただきたいと思ひます。

市の財政状況について厳しいということですが、これについて旭川市のHPに掲載されていますか。載っているんですね。わかりました。

この対話集会についてですが、これまでの開催内容をHPで見ると、各町内に共通する意見などがあります。その地区特有のものや、その中で答えの必要のないものと、考慮しますという部分と、その答えのあるものと、後でお答えしますというものがあります。そういったものを仕分けして、共通の問題については、広報誌などを通じて市民に知らせていただいてもいいのではないかなと思ひます。例えばどこの地域でも町内会への加入問題についての課題はありますので、こういう全地域に共通している問題については、広報誌に何らかのかたちで載せてもらえればいいのではないかなと思ひます。

伊ノ沢スキー場にスキーヤーが来ることによって、少数かもしれませんが、経済的な恩恵を受けていた方もいたかもしれませんが。その一方で市職員の昼休みを45分にするということについて、議会でも議論され、また地域の方が陳情を出していました。私はこれに違和感を感じています。この市職員の休憩時間について、地域経済への影響や地域の住民にとっては死活問題だということですが、伊ノ沢スキー場で経済的に恩恵を受けていた人もこれらと一緒に思ひます。そのことについて、一方だけ市域が大きいからといって、市長が要望書を受け、議会でも議論されているというのは、一市民として違和感を覚えているということだけはお話ししておきます。

市長

全市的に今架かっている橋の老朽化が進んできています。そのため、今は新設よりも、まず老朽化している橋の架け替えが最優先となります。このため、今後、橋の増設は非常に難しいという認識だけは持っていていただければと思ひます。そのような中でも少しずつですが、利便性の向上という部分については考えていかなければならないと思っております。

計画の有無については、市内の全ての将来計画を把握しておりませんので、後ほど調べてご連絡させていただきたいと思ひます。

参加者B

お答えは町内会経由で結構です。

市長

昼休みを45分にするということについて、私も声大きい小さいということでの価値基準で判断することはおかしいと思っておりますし、今回、商工会議所や平和通商店街などいろいろな団体から要望をいただき、それも踏まえて4月以降にどれだけの商店街に影響があるかということについて調べなければいけないと思っておりますが、もちろん商店街の皆さまにも経営努力で頑張ってくださいたいです、そのような話を議会でもさせていただいたところではあります。

対話集会での全市的に共通している意見等について、市民広報等に掲載してほしいということですが、私どももまだまだ整理しきれていない部分もありますので、今後広報誌やHPなどでの掲載方法について、皆さんにわかりやすくお知らせなどができるように工夫させていただきたいと思ひます。

参加者I

この集いで出た伊ノ沢スキー場に関するということについて、どうかたちで回答をしてくれるのでしょうか。

スキー連盟やスキー関係者に対してというのではなくて、そういうものに属していない市民に対しての回答です。

市長

市民という立場での方々に対しても、4月以降どういう形で回答させていただくかということも含めて、私どもの中である程度段取りがついた時点で回答させていただきたいと思っています。

市長終わりのあいさつ

限られた時間でありますので、まだまだ不十分だったかもしれませんが、皆さんお付き合いいただきまして本当にありがとうございます。

地域の課題等もいろいろとお話しがございましたが、今日は伊ノ沢という部分についてのお話しが非常に多かったと思います。そういったことも今後の課題として、私どもも4月以降ですけれども検討を進めていきたいと思っております。

また、事前にいくつか地域の課題等を神居地域の方からいただいており、時間の関係でお答えする場面がなかったのですが、回答が必要であれば、後日またご連絡していただいた時にお答えをさせていただきたいと思っておりますので、広聴広報課でも秘書課でも結構ですのでご連絡いただければと思います。今日はどうもありがとうございました。

【お詫び】

※ 後日、振込手数料等について確認したところ、郵便局(現ゆうちょ銀行)の場合は送金手数料等 480 円、他の金融機関は振込手数料0円となっていることが判明しました。訂正してお詫びします。